

会 議 録				
平成 21 年度第 8 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 22 年 1 月 20 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 802 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	伊藤、浦野、倉持、小林、樹、中村、本多、本川、吉池 各委員 (欠席) 田尻委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興担当課長、 田中図書館長、大関公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) その他				
2. 報告事項				
(1) 管外視察研修について				
(2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について				
(3) 第 1 回及び第 2 回小委員会について				
(4) 第 4 回定例会について				
(5) 平成 21 年度成人の日記念行事について				
(6) 第 6 回野川駅伝大会について				
(7) 第 47 回東京都公民館研究大会について				
(8) その他				
1. 協議事項				
(1) その他				
特になし				
2. 報告事項				
(1) 管外視察研修について				
(伊藤副議長)				
1 1 月 1 9 日に小金井市立清里山荘と、北杜市須玉ふれあい館文化ホールの 2 カ所 を視察した。小金井の清里山荘は林間学校施設、教育施設、北杜は市民の文化交流・ 農業振興活性化のための施設で活用範囲が広い。小金井市の清里山荘で特徴と思われ るものは、天体観測ができるという大型の反射望遠鏡が設置されていること。よその 教育施設には見られない、非常にユニークな施設の 1 つであり、さらに山の中にある				

施設にしては大きな体育館まである。一方、北杜市のほうは、目的そのものが文化交流・農業振興ということであるので、農業用の研修室や、調理実習室、中央公民館としての役割を持っている教育センターもある。舞台とそれに付属した楽屋も立派で、その楽屋の中で簡単なリハーサルもできるぐらいのスペースがある。予算を比べてみると、歳出は北杜が276億、1人あたりに換算すると55万2,000円。一方、小金井のほうは358億で、1人あたり32万2,000円。教育費を見ると、小金井市は全体の12.7%で45億、1人あたり3万9,000円、約4万円の支出。北杜は総予算の13.7%、金額にして37億円、1人あたり7万5,000円。人口が少ないこともあって、小金井より教育費の1人あたりが多い支出になっている。

(本川議長)

現在の指定管理業者になって、10年ぐらいたつと思うが、大変きれいに管理されている。ところどころ傷んでいるところはあるが、部屋の畳等もきれいにしており、愛情、使命を持って物事に取りかかる姿勢があらわれている。初めて行った方が多かったが、社会教育は多岐にわたるので、情報がたくさんあったほうがいい。市内でも社会教育に関する施設を、時間があるときに訪ねていくのも良いのではないか。

(2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について

(浦野委員)

平成21年11月28日土曜日、午後1時から4時半まで、会場は東久留米市立中央公民館で行った。出席者は、本川議長、伊藤副議長、本多委員、吉池委員、浦野、事務局からは木村主事。1部の式典で、井土前副議長が感謝状を受賞された。その後、基調講演があった。近年、地域での人々のつながりの太さや、かかわりの深さに変化が生じてきている。再び異世代の住民が力を合わせて地域づくりをしていくために、社会教育は何ができるかという思いで、今年度の「地域の特色を生かせる社会教育～世代を超えて学びあうまちづくり」というテーマを設定したということであった。この統一テーマを踏まえ、各ブロックではそれぞれ研修をした。各ブロックの細かい研修内容は伊藤さんの報告を見ていただければわかるかと思う。今後の社会教育のあり方としては、今まで社会教育に参加してこなかった、できなかった方々を含め、多くの人々に学ぶ喜びや、学び合い教え合う喜びを感じてもらうために社会教育委員は力を尽くしていくべきという基調講演だった。その後、女子美術大学名誉教授の岡田先生による、暦による日本人の知恵という講演があった。付録もいただき、ゆっくり読むとおもしろい内容がたくさんあり、なかなか興味深い講演であった。

(3) 第1回及び第2回小委員会について

(伊藤副議長)

第1回目は、12月17日、午後3時から5時まで、小委員会のメンバー全員出席のもとに行われた。平成19年度に提言された教育会議の中の作業ステップで、今年

は第2ステップにあたることから、「地域ネットワークづくりに向けて」というテーマで小委員会を行うことに決定。日程は、第2回目が1月7日。市民部にコミュニティ文化課があるが、生涯学習部と仕事内容が重なる部分があり、コミュニティ文化課で、市民協働支援センター準備室というものをつくって、福祉会館2階のボランティア・市民活動センターに間借りしながら活動している。内容的に地域教育会議の中で提言されている状況と似ているようなので、生涯学習分野と一緒にいる部分があれば、一緒にやったほうが良いということもあり、活動状況を聞きに行った。出席者は、小委員会のメンバー全員、尾崎生涯学習課長、木村主事。先方は、コミュニティ文化課から、山田主査、岩佐主事、社会福祉協議会から大木さん、相談員として現在NPO連絡協議会から推薦されている佐藤さん、社会福祉協議会から推薦されている加藤さん。山田主査の話では、文化行政として現在、市民活動の拠点づくり、ハード面の構築の準備をしているということであった。相談員の方々からは活動内容について話があり、市民自らが協働の担い手となるべく新しい公共の形に持っていけないといけない、今はまずハードの推進を中心に、という話であった。三鷹、調布といった先進市の市民協働支援センターはどういう活動をしているか視察に行ってきたということで、この近郊4市を視察したそうである。実際に小金井市内で市民活動をしているNPO等を訪問して調査をしたり、ブログ、ホームページ等で情報発信したりしている。社会教育団体や、スポーツ団体等、各々が様々な活動をしているが、1つのネットワークがつくられていないので、情報が途切れている。1つのネットワークが作り上げられ、そこへ問い合わせれば全部わかれば、という構想は我々と一緒かなと思った。

(本川議長)

市民協働支援センターのアンケート調査はNPOのひ・ろ・こらぼに委託、調査対象としているのが、生涯学習課関係、公民館関係、図書館関係、町会・自治会長、体育協会の加盟団体、社協のボランティア・市民活動センター登録団体のうち公開可とされた団体等で、広範囲である。集計はまだということなので、結果が出た後にどう集約していくのか、私たちが何かの形でかわり提言できるかもしれない。生涯学習課とコミュニティ文化課でも、もう少し連携ができると良い。

(倉持委員)

現段階では準備室ということだが、本格的な設置はいつを目標にしているのか。

(本川議長)

22年度にセンターの検討委員会を立ち上げて、24年度を目標にするようだ。

(浦野委員)

市民協働センターがないのが、近隣では小金井市だけという話を聞いた。そのため、まず拠点となる場所を設置しようと考えているようだ。ただ、具体的な予定は未定。

(本川議長)

ブログで準備室の活動をリアルタイムで紹介している。小金井市のホームページとリンクしているということなので見てみてほしい。2月1日(月)の午後6時半から8

時半には前原暫定集会施設の1階のA会議室で、「協働ってなあに？」という講演会も行う。小金井NPO法人連絡会、小金井ボランティア・市民活動センター共催、小金井市市民協働支援センター準備室の協力により開催される。

(倉持委員)

最近は、多くの場面で「協働」がキーワードになっていると思うが、考え方も様々で、特に生涯学習、社会教育の側面で言うと、協働という名のもとに、施設の有料化、ボランティアを無償の労働力として利用、というマイナスの側面を強調する識者もいる。市民や団体が成熟してきたから行政と対等だ、市民がつくっていくのだ、担い手になっていくのだというメリットを挙げる方もいれば、一方で、それによって行政による学習機会の提供が失われていくことに関する不満も根強くあるので、難しい。

(本川議長)

準備室とかかわりを持ちながら考えていきたい。こちらだけで考えていても、もう実際に動いているところとのギャップとか、あちらの考えていることとこちらの考えていることが一致しているのかというようなことも話し合いを持たないとわからない。

(倉持委員)

来年度からの三者合同会議等についてはどのように進める予定か。

(渡辺生涯学習部長)

今後、図書館協議会委員、公民館運営審議会委員、社会教育委員の三者による懇談会および合同会議について、テーマを持って進めていこうという話になっていたかと思うが、3月に各委員の代表(議長)が集まり、ある程度テーマについての絞込みを行う。そのため、来月の社会教育委員の会議では、三者協議会でのテーマについての社会教育委員全体としての意見をまとめていただきたい。三者の合同会議は5月くらいに実施する予定。日程についても三者の代表の集まりの中で決めてほしい。それぞれ協議会で、よくテーマをもんで、それを出してもらいたい。22年度のとりまとめは、生涯学習課が担当し、翌年は公民館、その次は図書館が事務局となる。事務局の仕事としては、会議の通知のお知らせと会議録の作成ということになるかと思う。

(4) 第4回定例会について

(渡辺生涯学習部長)

一般質問は中山議員から、清里の運営についてということで、中身は、清里へのシャトルバスを運行できないかという質問、村山議員が、平成25年の東京国体(東京多摩国体)に向けて準備はどうか、調布へのシャトルバスを運行しないのかという内容の質問、野見山議員が、「図書館と公民館の融合～施設建設を機会に新たな社会教育の展望を」ということで、小さい質問として3つ挙げられている。「新たな社会構造と時代の要請を見通した生涯学習・社会教育の方針を」「貫井北町センター建設を通じた新たな社会教育の実践を」「図書館と公民館の運営をめぐる問題点の整理」について。詳細については、議事録等を参照してほしい。

(本川議長)

調布へのシャトルとは、会場への送迎に対してのことか。

(渡辺生涯学習部長)

メイン会場への送迎については、東京都が行う分担になっているので、小金井市は、東京都からの要請等あれば、相談に乗るということである。

(尾崎生涯学習課長)

清里山荘のシャトルバスの件では、指定管理者と相談し、来年度の事業化に向けて、検討している。土日は、清里山荘も混むが、平日は季節のいい時期でも人が入らない時もあるので、そういう時期を利用し、お年寄り等、車や電車で行きにくい方の利便性を考え、バスの運行をという話があった。赤字が出るようなものだと難しいこともあり、指定管理者とも相談し、10人以上が集まる形になればできるという話になった。来年度は季節のいい時期に10回程度の運行を検討中。清里山荘に泊まり、夕食と朝食を食べていただき、指定管理者が買い取ったかんぼの宿（小諸）で温泉に入り昼食を食べてもらって帰ってくるという形のツアーを1泊2日約1万2,000円程度で検討中。軌道に乗れば回数が増える可能性もあるが、様子を見て実施したい。

(浦野委員)

来年度の図書館の運営について何か出なかったか。

(渡辺生涯学習部長)

第4回定例会に、第5回補正として図書館の運営委託経費関係と、新しい庁舎の市民検討委員会関係の予算をあわせて後日上程した。予算自体は可決されている。ただし、附帯決議があって、図書館の予算については執行を見合わせる決議があったので、事実上、来年度は図書館の委託は行えない。

(田中図書館長)

補正として提出させていただいたのだが、附帯決議ということで、執行停止になった。22年度から図書館は開館時間を延ばしたり、あるいは専門的職員を配置したりと考えていたが実施ができない状況となった。市民サービス拡充の声にお答えすることは、22年度はかなわなかったが、引き続きの検討課題ということで整理させていただいた。

(本川議長)

せっかくいろいろ検討したが、予算が執行停止されたということになるのか。また、業務を予算の範囲内で考えて、市民サービス向上ということはこれから考えるのか。

(渡辺生涯学習部長)

附帯決議ということで、全会一致で予算の執行は見直して、議員案によって、平成21年度小金井市一般会計補正予算（第5回）に対する附帯決議、図書館関連補正予算の執行を停止するよう求める決議が採択されている。これに反して執行することはできないので、事実上、委託はできないということである。今回の予算・委託化の大きな視点は、サービスの拡大ということを中心に挙げ、経費の効率化はそれほど求

めていなかった。現行の予算の範囲内という枠の中でサービス拡大を図りたく、委託化の提案をしたが、今回、委託化は執行停止するということなので、現行の体制のままやるとなるとサービス拡大（休館日を減らす、夜間の開館時間を延ばす等）は事実上難しい。議会では、正規職員を減らし、その分、非常勤を充てれば、委託化よりも経費は削減できるのではないかという議論があった。

(吉池委員)

今、市民サービスの拡大というのが非常に重要で、22年度は執行停止になっても、今後模索はするということか。聞いたところによると、図書館司書の中で一定の組合に加入している人と加入していない人の扱いについて差別するということがあるようである。労働者統一の見解の形を労働組合の人にもとってもらいたい。行政はそういう差別化の扱いによる合理化はやるべきではない。今後、23年度以降行われる場合も配慮して行ってもらいたい。

(田中図書館長)

行政としては、同じ職員であるので、労働組合への加入の如何によって差別することはない。今回もそういう整理はしていない。

(5) 平成21年度成人式の日記念行事について

(尾崎生涯学習課長)

平成22年1月11日、月曜日、成人の日に中央大学附属高校の講堂を借りて実施した。式典は、11時開会、市長あいさつ、来賓の祝辞などをいただき、11時30分ごろ終了。その後、FC東京の3選手からのビデオメッセージ、抽選会を行い、12時過ぎに終了した。大きな声を上げ、騒ぐということもなく、立派に式典がとり行われた。今年は平成元年4月2日から平成2年4月1日までに生まれた方が対象で、小金井市では、男性が674人、女性が592人、合計で1,266人が対象。外国籍の人が44人含まれている。当日の参加者数は、男性が352人、うち市外からの参加者が28名。女性は、323人で、市外からの参加者が16名。市内在住の参加者は、全員で631名、参加率は49.8%。市外を含めた合計では、675名の参加があった。

(伊藤副議長)

国歌斉唱は、前奏なしで歌に入ってしまった。前奏をやっておいて、もう一回出だしてから始めると、声が出るのではないか。来年度から工夫していただけないか。そうでなければ、前奏がないからすぐ歌い出してください等、司会から一言ほしい。

(尾崎生涯学習課長)

検討させていただく。

(6) 第6回野川駅伝大会について

(林スポーツ振興担当課長)

1月17日に武蔵野公園野川第二調節池をスタート、ゴール地点として、武蔵野公園内をコースに実施した。参加チーム数は68チーム、昨年は77チーム、参加者数599人で、昨年605人で、チーム数、参加者人数とも昨年より若干減少している。役員スタッフについては、この大会については全員の個人記録をとる関係があるので、多くの関係団体に協力者を出していただいで運営している。また、今回から中学生、高校生のボランティアにもお手伝いいただき、実施した。詳細の参加人数等については、資料をごらんいただきたい。

#### (7) 第47回東京都公民館研究大会について

(大関公民館長)

昨年の12月13日に東京都公民館連絡協議会主催の公民館研究大会が、小金井市の公民館本館ほか4カ所、計5カ所で開催された。当日は市民の方や社会教育関係者の方々351名のご参加をいただき、「地域と歩む公民館2」を大会テーマにして、5つの課題別に分かれて行われた。活発な討議が交わされて大盛況であったと各課題別の担当職員から聞き、この大会が有意義であったこと、また実り多いものになったと思っている。なお、大会結果の詳細については、3月ごろ小金井市のホームページに掲載する予定である。

(伊藤副議長)

今年の研究大会は、最初から課題別で研究をやったということが非常によかった。私の参加した課題別では、課題を2つ出され、みんなが集中して短時間でテーマに取り組んでやり終えた。各行政団体によって状況も異なり、即実践できるかはともかく、皆さんが各地域から集まって1つのテーマに取り組み、自分のところの状況等について話し合いをしたということは非常によかった。

#### (8) その他

##### ・ 第4回図書館協議会について

(浦野委員)

昨年の11月6日、平成21年度第4回図書館協議会が行われた。第11期の1回目にあたるので、図書館の協議会委員への委嘱、会長の互選を行った。会長は実践女子大の松尾先生。その他、新図書館の建設についての報告事項があった。協議事項としては、10期のときにまとめた図書館の運営方針について新委員の意見を伺い、新委員も踏襲してほしいということでまとまった。新委員は、前にまとめた答申について詳しく知らないため、11月24日に本町暫定で10時から2時間ほどの勉強会を行った。次回の協議会は2月18日の予定。

(中村委員)

新図書館の建設について、詳細をかいつまんで教えていただきたい。

(田中図書館長)

平成22年度に新図書館の建設委託費について計画するための調査委託をかけるので、そのメンバーになっていただきたいという話をした。図書館自体がいつ建つかというのは未定。

(渡辺生涯学習部長)

調査委託の予算は、来年度予算だけれども、まだ内部で固めている最中であり、議会に諮った上で正式決定されるので、それ以前には公表していない。わかり次第、また社会教育委員の会議に報告したい。

- ・(仮称) 貫井北町地域センターの市民検討委員会について

(渡辺生涯学習部長)

(仮称) 貫井北町地域センターについて、来年度市民検討委員会を設置し、基本設計を行う予定。要綱が本決まりではないが、社会教育委員の会議委員、図書館協議会、公民館運営審議会、この3者から出るのはどこからも異論は出ないと思うので、人選について今から協議しておいていただきたい。スケジュールは正式に決まっていないが、早ければ6月か7月くらい。会議自体は全10回くらいになるかと思う。市民の方が使いやすいものを、専門家の意見を聞きながら判断していただき、意見を言うていただくという形になるかと思う。社会教育施設や図書館としての機能はどんなことが必要かというのが論点になるかと思う。

(本川議長)

次回かその次あたりの会議に向け、それぞれがご自身で考えていただいて決めたい。

- ・ 放課後子どもプラン運営委員会について

(小林委員)

放課後子どもプラン運営委員会は、明日21日に第5回目があり、第6回目は3月18日木曜日を予定。明日は、各小学校区の進捗状況の報告があるのだが、3名のコーディネーターからの報告と、平成22年度の放課後子ども教室についてということである。またこれは2月に報告させていただきたい。

(浦野委員)

放課後子どもプランについてだが、今回、国での事業仕分けの関係で来年度の予算がどういふふうに影響してくるのか、事務局として情報をお持ちか。

(渡辺生涯学習部長)

予算の内容については、今の時点でご説明できないが、国の動向については、私どもの耳に入っている限りでは、放課後子どもプランについては、東京都に関しては特に影響を受けないだろう。逆に拡大する傾向も可能ではないかとの説明は受けているので、特段大きな影響はないと判断している。

以上